

家庭教育支援実践交流会 開催報告

～家庭・地域・学校のつながりが、子どもの未来につながる～

趣 旨

核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化等、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。

そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るための機会として実施する。

日 時 令和3年1月29日(金)13:30～16:30(受付13:10～)

参加人数 82名

会 場 近江八幡市勤労者福祉センター(アクティ近江八幡) 多目的ホール [近江八幡市鷹飼町南4丁目4番5号]

対 象

- (1)国庫補助事業「地域における家庭教育支援基盤構築事業」実施および実施検討市町担当者
- (2)家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員等
- (3)民生委員、主任児童委員
- (4)各市町教育委員会家庭教育担当者、各市町教育委員会教育相談担当者、各市町児童福祉主管課子育て支援担当者
- (5)子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー等

日 程

- 13:30～13:40 ○開会行事(挨拶、日程説明)
- 13:40～14:10 ○実践事例発表(彦根市および湖南市の取組)事例発表
・彦根市 「彦根市家庭教育支援事業の取組」
・湖南市 「湖南市の家庭教育支援の取組」
- 14:10～14:20 ○質問票記入および休憩(10分間)
- 14:20～15:10 ○ミニパネルディスカッション
登壇:彦根市、湖南市の家庭教育支援関係者
参加者からの質問をふまえ、会場が一体となって、参加者一同が家庭教育支援について学びました。
- 15:10～15:15 ○休憩
- 15:15～16:25 ○講 演
演 題:「今、求められている家庭教育支援とは」
講 師:上村 文子氏(滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー)
- ～16:30 ○閉会





○事例発表

発表内容：「彦根市家庭教育支援事業の取組」
 発表者：磯崎久和氏
 （彦根市教育委員会事務局生涯学習課）



○事例発表

発表内容：「湖南省の家庭教育支援の取組」
 発表者：中村信次氏（湖南省教育研究所）
 傍田安子氏（三雲小学校家庭教育支援員）
 八尾一恵氏（三雲小学校家庭教育支援員）



○ミニパネルディスカッション

・・・参加者から質問等を記入いただき、コーディネーターが記載内容を話題として参加者に広げました。





○講演
 演題:「今、求められている家庭教育支援とは」
 講師:上村 文子氏(滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー)

参加者の声(受講者アンケートより)

- ・家庭教育支援の具体的な動きが分かりました。自分の地域では「訪問型家庭教育支援」はすぐには始められないかもしれませんが、市全体にこういった動きが必要であると感じました。(児童委員)
- ・実際にチームを作って取り組んでいきたいです。地域の方も枠組みがあった方が行動しやすいと思うので、できるだけ早く何かができればと思いました。いろんな人とつながってやっていければと思います。(スクールソーシャルワーカー)
- ・県内の詳しい取組を聞かせていただき感謝しています。コロナ禍で活動が制限される中、子どもたちとつながる機会がないので、本実践交流会で様々なヒントをいただけたと感じています。今回の学びは、とても分かりやすく大事なことを教えてもらえました。(主任児童委員)
- ・今回の講演で、たいへん勇気をいただきました。地域福祉の役割の大切さをあらためて考えさせられました。共生社会を目指していくなか、民生児童委員として、やっていくべきことがたくさんあると思いました。参加させていただき、本当によかったです。(民生委員)
- ・本市では聞くことが少ない活動を知ることができた。各学区には主任児童委員がおりますので、もっと声をかけていただければと思いました。(児童委員)
- ・地域の方が子育てに自然なかたちで自主的に関わりをはじめていただける、そんな地域、まち、ひとづくりが大切だと思いました。共助へのはたらきかけを進めたいです。(行政職員)
- ・家庭教育支援基盤構築事業について理解することができた。この事業で活動する「家庭教育支援員」や「家庭教育支援チーム」は、とても有効な資源であると思う。(行政職員)
- ・湖南市のお二人の家庭教育支援員さんの一言ひとことに子どもや保護者に対する温かい思いがいっぱい入っていると感じました。お二人の話を聞き、胸が熱くなりました。(教職員)
- ・家庭教育支援員と学校現場が一本化されて、各家庭に訪問活動ができている彦根市、湖南市の実践に感動しました。児童に支援員の顔を覚えてもらう取組が素晴らしいです。自分も家庭教育支援員として、学校側からの情報を受けて行動するのではなく、子どもとの関わりを「細く、長く」続けていくことを心掛けていこうと思います。(家庭教育支援員)
- ・家庭の支援に学校だけが入るのには限界があるので、支援員さんがいてくださることは、とてもありがたいことだと思いました。軌道に乗ること、体制が整うことに時間がかかるかもしれませんが、こういった取組がどんどん広がっていくことを願っています。(行政職員)
- ・家庭教育支援って具体的には何をするのか、支援員を数年経験していても曖昧に感じているところがありましたが、今回のようなアウトリーチの取組ができると、いろいろな家庭の助けになれるのかなと思いました。そのためにも、各組織の関係がもっと風通しの良いものになればと思います。(家庭教育支援員)